



2023年7月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年6月5日

上場会社名 株式会社ファーマフーズ 上場取引所 東
 コード番号 2929 URL https://www.pharmafoods.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金 武祚
 問合せ先責任者 (役職名) 管理部部長 (氏名) 河中 敏弘 TEL 075-394-8600
 四半期報告書提出予定日 2023年6月14日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年7月期第3四半期の連結業績（2022年8月1日～2023年4月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年7月期第3四半期	52,533	19.3	1,634	75.4	1,582	47.0	1,068	-
2022年7月期第3四半期	44,050	30.5	931	△64.6	1,076	△60.4	△284	-

(注) 包括利益 2023年7月期第3四半期 1,275百万円 (-%) 2022年7月期第3四半期 △310百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年7月期第3四半期	37.00	-
2022年7月期第3四半期	△9.80	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年7月期第3四半期	35,465	7,557	21.3
2022年7月期	31,159	7,074	22.7

(参考) 自己資本 2023年7月期第3四半期 7,555百万円 2022年7月期 7,071百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年7月期	-	10.00	-	10.00	20.00
2023年7月期	-	10.00	-	-	-
2023年7月期（予想）	-	-	-	10.00	20.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年7月期の連結業績予想（2022年8月1日～2023年7月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	71,000	18.0	1,191	10.3	1,268	0.3	886	-	30.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 1社 （社名）PF Visionary Fund投資事業有限責任組合、除外 1社 （社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年7月期3Q	29,079,000株	2022年7月期	29,073,800株
② 期末自己株式数	2023年7月期3Q	233,970株	2022年7月期	52,483株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年7月期3Q	28,887,115株	2022年7月期3Q	29,010,776株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記の予想の前提条件その他に関する事項については、【添付資料】4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法）

第3四半期決算補足説明資料は、2023年6月5日に当社WEBサイトに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	10
(収益認識関係)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、「100歳時代に価値ある豊かさと価値ある健康を」というサステナビリティビジョンを掲げ、人々の持続可能な健康的で幸せな社会の実現を目指しております。

その実現に向け、食品、化粧品、医薬品の開発を科学的根拠に基づいて行い、独自の研究成果及び製品を「BtoB事業」「BtoC事業」「バイオメディカル事業」の3事業において広く社会に提供しております。

なお、当社は2022年5月13日付で(株)PF Capitalの株式を取得し子会社化し(2022年6月30日付でみなし取得)、2022年5月25日付でオンキヨー(株)の株式を取得し持分法を適用(2022年6月30日付でみなし取得)しているため、第1四半期連結会計期間より、(株)PF Capital及びオンキヨー(株)の業績が含まれております。

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の脅威から脱しつつあり、経済活動は緩やかに回復基調にあるものの、日米の金利差拡大、ロシアによるウクライナ侵攻を背景とした原油・原材料の高騰及び円安など、先行き不透明な状況が続いております。

一方、このような生活様式の急速な変化にも関わらず、消費者の医療、健康及び美容に対するニーズは引続き継続しております。

こうしたニーズに応えるべく、「中期経営計画2026」のテーマ「新価値創造 1Kプロジェクト」を掲げ、この実現のため、積極的に新規素材開発、研究員の採用強化をはじめとした研究開発投資、新製品及び主力製品への広告投資に注力いたしました。

これらの取組みにより、当社グループの研究開発費は599百万円(前年同期比26.3%増)となりました。広告宣伝費は、上半期から投資の適正化に取り組んだ結果、当第3四半期連結会計期間では8,308百万円、当第3四半期連結累計期間31,144百万円(前年同期比19.1%増)となりました。

BtoB事業では、GABAをはじめとする機能性素材の販売並びにOEM受託及び自社ブランド製品の販売が増収に寄与いたしました。

BtoC事業では、「ニューモ育毛剤」をはじめとする医薬品・医薬部外品が、売上及び利益に大きく寄与いたしました。

新製品の販売では、「DRcula(キュラ)」シリーズの薬用ホワイトニングジェルが好調を維持し、当第3四半期連結累計期間においても、売上高の増加に貢献いたしました。

また、まつ毛美容液「WMOA」は累計出荷200万本を超えるなど引続き堅調に推移しており、新製品の育成が着実に進む結果となりました。

新市場への取り組みでは、「ニューモ育毛剤」及び「ニューモVactoryシャンプー」の海外ECプラットフォーム及び代理店向けの販売が引続き堅調に推移し、売上高の増加に貢献いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は52,533百万円(前年同期比19.3%増)、営業利益1,634百万円(前年同期比75.4%増)、経常利益1,582百万円(前年同期比47.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益1,068百万円(前年同期は284百万円の損失)となりました。

前第3四半期連結会計期間から当第3四半期連結会計期間までの各四半期別の業績推移は以下のとおりです。

	前期		当期		
	前第3四半期 連結会計期間	前第4四半期 連結会計期間	当第1四半期 連結会計期間	当第2四半期 連結会計期間	当第3四半期 連結会計期間
売上高(百万円)	15,228	16,135	17,030	18,113	17,390
営業損益(百万円)	△1,100	148	△2,194	1,310	2,518
経常損益(百万円)	△1,028	188	△2,180	1,268	2,494

セグメント別の経営成績は次のとおりです。

<バイオメディカル事業>

①創薬事業

創薬事業では、「自己免疫疾患」及び「繊維症」等の難治性疾患を対象とした研究開発を行っております。

創薬事業の基盤となる「ALAgene technology」は、これまで治療できなかった病気に対する抗体及び既存医薬品よりも優れた薬効を持つ抗体を作製する当社独自のプラットフォーム技術です。

本技術を活用・高度化することで、当社は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の令和3年

度「次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業（国際競争力のある次世代抗体医薬品製造技術開発）」における主要メンバーとして参画しております。本事業において当社は、あらゆる疾患を標的とした次世代抗体医薬品候補となり得るリード抗体の取得に成功し、低分子抗体や二重特異性抗体等の次世代抗体医薬品の開発プロセスに進んでおります。

「自己免疫疾患」においては、当社内の「国際PAD^{※1}研究センター」において、一連のPAD関連ターゲットに対する創薬研究を推進しております。

抗PAD 4 抗体については、2022年8月に米国特許庁から特許査定を受領いたしました（出願番号US15/555,808）。本特許査定により、日本（特許第6369922号並びに第6675739号）のみならず、バイオ医薬品の世界シェア50%を占める米国においても、「PAD 4」を標的とする創薬プロジェクトの知的財産権が強化されることになりました。

「繊維症」等の各種難治性疾患においては、標的分子に対する抗体を取得・精製し、薬効薬理試験等の創薬研究を推進しております。

この他、大学や製薬企業との共同研究による新規創薬シーズの発掘に積極的に取り組んでおり、新たなパイプラインの拡充に向けて順調に進捗しております。

②研究支援事業

2022年4月に吸収分割により、タンパク質解析国内トップレベルの実績・技術力を誇る㈱アンテグラルのバイオサイエンス事業を承継し、プロテオーム解析等を中心とした受託サービスを行っております。

2022年6月には、プロテオーム解析のさらなる強化のため、微量なタンパク質の変化が解析可能な「Olink Target」サービスを、国内で初めて開始いたしました。「Olink Target」サービスは、国内の研究機関、製薬企業等からの受注が順調に伸び、バイオメディカル事業における収益拡大に貢献しております。

さらに2023年2月には、新サービス「Olink Flex」を開始いたしました。「Olink Flex」は、お客様のニーズに応じてカスタマイズ可能なソリューションで、よりターゲットを絞ったタンパク質分析を行うことができます。

以上の結果、バイオメディカル事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は283百万円（前年同期比501.4%増）、セグメント損失177百万円（前年同期は194百万円の損失）となりました。

<BtoB事業>

BtoB事業では、機能性素材、健康食品及び医薬品等の研究開発及び製造を行い、食品・医薬品メーカー、流通事業者等に販売をしております。当事業が属する機能性表示食品及び健康食品等ヘルスケア市場は、健康維持、増進への高い意識を背景に、市場規模が拡大しております。

機能性素材の売上高は、1,381百万円（前年同期比28.5%増）となりました。当社の主力商品である「ファーマギャバ」が好調に販売しており、国内市場では、機能性表示食品制度における「GABA（ギャバ）」の届出件数は891件（2023年5月18日時点）で、引続き第1位の採用実績を維持しております。食品メーカーによるGABAの採用拡大が継続しております。

海外市場では、米国のアフターコロナの動きに呼応し、商品の採用が増えてきており、骨形成成分である「ボーンペップ」が、海外乳業メーカー向けなどに大きく伸長しております。

機能性製品の売上高は、1,222百万円（前年同期比84.0%増）となりました。このうち、OEM事業では、ヘルスケア企業向けダイエット食品及び健康飲料並びにドラッグストア向けプライベートブランド製品が売り上げに貢献いたしました。また、当社ナショナルブランド（NB^{※2}）製品の販売では、大手コンビニエンスストア向けに当社ならではの機能性を持った新製品を投入いたしました。NB製品第1弾の「明晰（メイセキ）ラボ」（論理的思考力を維持）に続き、「筋肉ラボ」（筋肉量の維持）、「朝ラボ」（活気・活力感）及び「夜ラボ」（睡眠の質）と積極的に新製品の開発・販売に注力いたしました。海外における最終製品の販売では、海外のECプラットフォームや現地代理店向けの販売を強化いたしました。

明治薬品㈱が手がける医薬品製造受託の「CMO^{※3}事業」の売上高は、3,072百万円（前年同期比17.2%増）となりました。後発医薬品メーカーの品質問題や製造上の不備による影響で代替需要が高まる中、利益率向上を目指し、受注価格への転嫁と受託品目の絞り込みを行ってまいりました。また、同社の機能性食品・医薬品等をドラッグストアチャネル等での販売を行う「CHC^{※4}事業」の売上高は778百万円（前年同期比41.7%減）となりました。ドラッグストア向けに新たな明治薬品ブランド製品の販売を強化しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のBtoB事業の売上高は6,455百万円（前年同期比13.3%増）、セグメント利益は1,069百万円（前年同期比6.5%増）となりました。

<BtoC事業>

BtoC事業では、「発明企業の通販事業」として当社独自の機能性素材を配合したサプリメント及び医薬部外品（「タマゴ基地」ブランド）並びに化粧品（「フューチャーラボ」ブランド等）の商品を、通信販売の方式

で消費者へ直接販売を行っております。

顧客獲得効率指標のCPO^{※5}及び収益性指標のLTV^{※6}を重視しながら、新製品へ広告宣伝投資を積極的に行っており、まいりました。同時に、広告宣伝費の適正化を図る取り組みを強化したことにより、2023年4月末時点の当社グループ全体の定期顧客件数は、991,535件（前年同期982,458件）となりました。この結果、当第3四半期連結累計期間のセグメント損益は1,622百万円の黒字となり、広告投資の適正化が、より一層の利益創出につながっております。

「ニューモ育毛剤」をはじめとする「医薬品・医薬部外品」の売上高は25,520百万円（前年同期比2.4%増）になりました。主力の「ニューモ育毛剤」の定期顧客件数は465,285件（前年同期467,335件）と新規獲得及び定期継続率の水準が安定的に推移しているため、当社グループ全体の売上及び利益に寄与しております。なお、「ニューモ育毛剤」の累計出荷件数は、2023年4月5日時点で2,000万本を突破し、引続き堅調な受注が継続しております。また、明治薬品㈱の「ラクトロン錠」や薬用ホワイトニングジェル「DRcula（キュラ）」は、特にWEB広告で受注が増加し、定期顧客件数の増加につながりました。

「サプリメント」の売上高は9,936百万円（前年同期比32.3%増）になりました。「シボラナイトGOLD」をはじめとした明治薬品㈱の機能性表示食品の売上が寄与いたしました。後継の製品として、ブラックジンジャー由来の機能性表示食品「シボラナイト2」の発売を開始しております。

「化粧品」の売上高は9,558百万円（前年同期比103.1%増）になりました。主に「ニューモ」ブランドのまつ毛美容液「WMOA」を、主力製品として引続き育成してまいりました。その結果、2023年5月27日時点で、累計出荷件数は200万本を突破しております。また、㈱フューチャーラボの「珠肌ランシエル」及び「ヘアポーテボタニカルカラークリームシャンプー」が前年同期比での増収に貢献いたしました。

以上の結果、BtoC事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は45,779百万円（前年同期比19.5%増）と大幅な増収となりました。定期顧客のさらなる獲得を目指し、広告宣伝費31,001百万円（前年同期は26,079百万円、前年同期比18.9%増）を計上し、セグメント利益は1,622百万円（前年同期比97.2%増）となりました。

※1 PAD (Peptidylarginine deiminase) : 標的タンパクのアルギニンをシトルリン化する酵素。生体内に5種類のPADが存在し、各種疾患との関連が報告されている。

※2 NB (National Brand) : 自社ブランド製品

※3 CMO (Contract Manufacturing Organization) : 医薬品製造受託機関

※4 CHC (Consumer Health Care) : ドラッグストアでの医薬品及び機能性食品等の販売

※5 CPO (Cost Per Order) : 顧客1件を獲得するために要した広告宣伝費

※6 LTV (Life Time Value) : 顧客生涯価値

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ4,306百万円増加し、35,465百万円（前期比13.8%増）となりました。これは主に、現金及び預金の増加5,036百万円、受取手形及び売掛金の減少1,202百万円によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ3,822百万円増加し、27,907百万円（前期比15.9%増）となりました。これは主に、広告宣伝費の増加等による未払金の増加393百万円、シンジケート方式によるコミットメントライン契約に基づく借入実行による短期借入金の増加2,000百万円、長期借入金の増加1,281百万円によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ483百万円増加し、7,557百万円（前期比6.8%増）となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益による増加1,068百万円、配当金の支払による減少578百万円、自己株式の取得及び処分による減少205百万円、その他有価証券評価差額金の増加207百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは、自社ブランド製品の販売開始、広告の適正化など、これまでの仕組みの大胆な見直し等に取り組んでおり、これらの取り組みによる当社の連結業績への影響は、当期末までに具現化してくることが見込まれます。そのため、2023年7月期の通期の連結業績予想につきましては、現在精査を行っており、2022年9月6日に発表しました業績予想値から大きな変更が生じる場合は、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,845	13,882
受取手形及び売掛金	6,702	5,499
電子記録債権	732	557
商品及び製品	4,704	4,483
仕掛品	478	657
原材料及び貯蔵品	884	918
その他	1,175	1,203
貸倒引当金	△9	△2
流動資産合計	23,513	27,200
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	2,549	2,430
機械装置及び運搬具 (純額)	457	583
工具、器具及び備品 (純額)	176	169
土地	1,193	1,190
リース資産 (純額)	31	23
建設仮勘定	50	52
有形固定資産合計	4,458	4,450
無形固定資産		
のれん	270	215
その他	34	29
無形固定資産合計	305	244
投資その他の資産		
投資有価証券	1,572	2,383
その他	1,309	1,186
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	2,881	3,570
固定資産合計	7,645	8,265
資産合計	31,159	35,465

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年4月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,176	1,210
短期借入金	15,400	17,400
1年内返済予定の長期借入金	760	934
未払金	4,077	4,471
未払法人税等	434	327
賞与引当金	70	152
その他	876	811
流動負債合計	22,795	25,307
固定負債		
長期借入金	697	1,978
退職給付に係る負債	427	470
その他	164	151
固定負債合計	1,288	2,600
負債合計	24,084	27,907
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,042	2,043
資本剰余金	1,820	1,822
利益剰余金	3,300	3,780
自己株式	△138	△343
株主資本合計	7,024	7,302
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	46	253
その他の包括利益累計額合計	46	253
新株予約権	0	—
非支配株主持分	2	1
純資産合計	7,074	7,557
負債純資産合計	31,159	35,465

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年8月1日 至 2022年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年4月30日)
売上高	44,050	52,533
売上原価	8,828	10,227
売上総利益	35,222	42,306
販売費及び一般管理費		
研究開発費	475	599
広告宣伝費	26,158	31,144
支払手数料	2,465	3,043
のれん償却額	34	54
その他	5,156	5,829
販売費及び一般管理費合計	34,290	40,672
営業利益	931	1,634
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	24	13
為替差益	29	—
補助金収入	74	44
持分法による投資利益	12	—
業務受託料	12	12
その他	21	28
営業外収益合計	175	100
営業外費用		
支払利息	18	37
為替差損	—	3
投資事業組合運用損	—	10
持分法による投資損失	—	61
支払手数料	12	29
商品回収等関連費用	—	5
その他	0	2
営業外費用合計	30	152
経常利益	1,076	1,582
特別利益		
負ののれん発生益	82	—
固定資産受贈益	—	8
特別利益合計	82	8
特別損失		
固定資産売却損	—	6
固定資産除却損	0	—
特別損失合計	0	6
税金等調整前四半期純利益	1,158	1,584
法人税等	1,442	516
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△284	1,067
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△284	1,068

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年8月1日 至 2022年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年4月30日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	△284	1,067
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△26	207
その他の包括利益合計	△26	207
四半期包括利益	△310	1,275
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△310	1,276
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 2021年8月1日 至 2022年4月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年10月20日 定時株主総会	普通株式	581	20.00	2021年7月31日	2021年10月21日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額には、記念配当5円が含まれております。

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年2月21日 取締役会	普通株式	290	10.00	2022年1月31日	2022年4月4日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 2022年8月1日 至 2023年4月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年10月20日 定時株主総会	普通株式	290	10.00	2022年7月31日	2022年10月21日	利益剰余金

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年2月20日 取締役会	普通株式	288	10.00	2023年1月31日	2023年4月4日	利益剰余金

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年8月1日 至 2022年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	B to B 事業	B to C 事業	バイオ メディカル 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	5,696	38,307	47	44,050	-	44,050
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	5,696	38,307	47	44,050	-	44,050
セグメント利益又は損失(△)	1,004	822	△194	1,632	△700	931

(注)1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△700百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△666百万円及びのれん償却額△34百万円が含まれております。なお、全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
重要性が乏しいため、記載を省略しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年8月1日 至 2023年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	B to B 事業	B to C 事業	バイオ メディカル 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	6,455	45,779	283	52,518	14	52,533	-	52,533
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	6,455	45,779	283	52,518	14	52,533	-	52,533
セグメント利益又は損失(△)	1,069	1,622	△177	2,514	△3	2,510	△876	1,634

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ファンド運営事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△876百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△821百万円及びのれん償却額△54百万円が含まれております。なお、全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年8月1日 至 2022年4月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	BtoB 事業	BtoC 事業	バイオ メディカル 事業	計	
機能性素材	1,075	—	—	1,075	1,075
機能性製品	664	—	—	664	664
CMO	2,621	—	—	2,621	2,621
CHC	1,335	—	—	1,335	1,335
サプリメント	—	7,510	—	7,510	7,510
化粧品	—	4,705	—	4,705	4,705
医薬品・医薬部外品	—	24,913	—	24,913	24,913
その他	—	1,177	—	1,177	1,177
バイオメディカル	—	—	47	47	47
顧客との契約から生じる収益	5,696	38,307	47	44,050	44,050
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	5,696	38,307	47	44,050	44,050

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年8月1日 至 2023年4月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	合計
	BtoB 事業	BtoC 事業	バイオ メディカル 事業	計		
機能性素材	1,381	—	—	1,381	—	1,381
機能性製品	1,222	—	—	1,222	—	1,222
CMO	3,072	—	—	3,072	—	3,072
CHC	778	—	—	778	—	778
サプリメント	—	9,936	—	9,936	—	9,936
化粧品	—	9,558	—	9,558	—	9,558
医薬品・医薬部外品	—	25,520	—	25,520	—	25,520
その他	—	763	—	763	—	763
バイオメディカル	—	—	283	283	—	283
顧客との契約から生じる収益	6,455	45,779	283	52,518	—	52,518
その他の収益	—	—	—	—	14	14
外部顧客への売上高	6,455	45,779	283	52,518	14	52,533

(注) 当第3四半期連結会計期間より、収益認識の分解情報をより適切に反映させるため、当社グループの商品名・製品名で表記していた収益の名称を「機能性素材」、「機能性製品」、「サプリメント」、「化粧品」、「医薬品・医薬部外品」に区分し、組替えております。これに伴い、前第3四半期連結累計期間の情報も変更後の名称で表示しております。